

保健師より

(区役所3階33番)

浪速区敷津東1-4-20
06-6647-9968



夏に流行する感染症にご注意を！



高温多湿を好み夏に増殖するウイルスが原因で、
せきやくしゃみ、ウイルスに触れた手を介して感染がひろがります。
6月頃から乳幼児を中心に増え始め、7～8月にピークとなります。
子どもだけでなく、大人も注意が必要です。

咽頭結膜熱(フェール熱)	手足口病	ヘルパンギーナ
症状 39～40℃の高熱、のどの痛み、 目の症状(充血、眼痛、目やになど) など ◇1週間程度でおさまります	症状 手のひら・足の裏などに米粒大の 水ぶくれを含む発疹、口内炎、 39℃以下の発熱、のどの痛みなど ◇3～8日でおさまります	症状 39℃以上の突然の発熱、 のどの奥に水ぶくれ(水ぶくれが破れると 痛みも伴います)など ◇2～4日で解熱し、8日程度でおさまります

❖ 予防法は…

手洗い、うがいをしっかりしましょう。

手洗いの際は、石鹸で手をよく洗い、タオルの共有は避けましょう。



❖ かかってしまったら…

いずれも、特効薬がないため、それぞれの症状を和らげる対症療法が中心です。

症状がおさまるまで、部屋を涼しくして安静にしましょう。

のどの痛みで食欲がなくなりますが、食べられるものを少しずつ食べるようにしてください。

脱水症の予防に、こまめに水分補給をしましょう。

発熱やせきに加えて、呼吸が苦しい、食事や水分が摂取できないといった症状があれば、
すぐに医療機関に相談しましょう。

